



# 総研大ニューズレター

## 第106号 2017.4発行

### ●目次

#### 【今月のトピックス】

長谷川学長の挨拶

学長・長谷川眞理子  
総務課

平成28年度春季学位記授与式

対談—大隅良典総研大名誉教授—

「つづら折りの研究者人生

楽観的かつ自由に好きな分野を探求」

広報社会連携室

ノーベル賞受賞者の対話イベントについて

広報社会連携室

学融合レクチャー

「結晶の対称性・基礎コース」

物質構造学専攻・教授 神山崇

サイエンスカフェ

「北極の天気と海氷をしらべる」

極域科学専攻・准教授 猪上淳

市民参加型ワークショップ

「古典」オーロラハンター2

古典籍共同研究事業センター

プレスリリース

『「明月記」と「宋史」の記述から、平安・鎌倉時代における連発巨大磁気嵐の発生パターンを解明』

広報社会連携室

メディア社会文化専攻打ち上げ兼同窓会を挙行

メディア社会文化専攻・専攻長仁科エミ

4/1から国立歴史民俗博物館及び国立民族学博物館にける総研大生の観覧無料化

広報社会連携室

総研大・国立天文台 スプリングスクール2017

天文科学専攻・准教授 関本裕太郎

平成28年度第2回情報セキュリティ・セミナー

学術情報基盤事務室

#### 【受賞・採択情報】

情報学専攻 北村大地氏が第7回日本学術振興会育志賞を受賞

#### 【イベント情報】

主なイベント予定

4月11日-14日

平成29年度前学期フレッシュマンコース

4月18日-4月21日

総合教育科目「ミクロ・マクロ生物学Ⅱ」

5月3日(祝)

湘南国際村フェスティバル

5月13日

講演会「進化から見たヒトの成長と子育て」

5月20日

平成29年第2回基礎生物学専攻 大学院説明会

5月20日

生命共生体進化学専攻 講演会・説明会

5月24, 25, 27, 28日

遺伝学専攻の大学院一日体験会

物理科学研究科 核融合科学専攻 入試説明会

#### 【今月のトピックス】

##### ● 長谷川眞理子学長のご挨拶

平成29年4月1日から就任された長谷川学長より、メッセージをいただきましたので掲載いたします。

総合研究大学院大学(以下、総研大)は、大学共同利用機関という研究所などを基盤とする専攻と、大学本部に直結した先端科学研究科からなる、学部を持たない大学院だけの大学です。大学共同利用機関とは、各研究分野において日本全国の大学が共同で利用できる研究所であり、これらの機関は、それぞれの研究分野の拠点として最先端の研究を行いながら、研究者コミュニテ

イの中核となり、国際的な共同研究も推進しています。先導科学研究科は、このような基盤機関を持ちませんが、葉山の地で、生物の進化と、科学と社会の関係に関する最先端の研究を行っています。

総研大は、このような優れた研究拠点で院生の教育を行い、次世代の研究者を養成するという、世界にも類をみないコンセプトのもと、1988年10月に設立されました。2018年には30周年を迎えます。

総研大の教育現場は、すなわち、日本の最先端研究の現場です。通常の学部につなげた大学院での生活とは大変異なり、とくに5年一貫制の入学者の場合、学部卒ですぐにも専門の研究者に取り巻かれながら、自らの勉学と研究に励むこととなります。学生数の2倍以上にのぼる教員数。ほかでは得られない装置や資料、一流の研究者集団。このような環境で博士論文のための研究をすることは、素晴らしいチャンスではありますが、普通の大学とは異なる面、ストレスもあるかもしれません。

しかし、どの専攻も院生たちを大事にし、そこで過ごす時間が実り多く楽しいものとなるよう工夫しています。大学本部も精いっぱいそれを支えていきます。学生のみなさんは、この研究環境を最大限に活用し、博士論文研究に取り組んでください。



総研大は創立以来、「高い専門性」と「広い視野」、そして「国際的な通用性」を教育目標に掲げてきました。先に述べたような研究現場で学ぶのですから、「高い専門性」と「国際的な通用性」は、自ずと身につくかもしれません。

しかし、「広い視野」はどうでしょうか。「広い視野」とは、自分の研究対象を、もっと広い、人類の知的な活動全体の中で位置づけて語るができる能力、現在の専門分野を越えて、新たな地平を想像することのできる能力です。博士論文の執筆中にこれらを獲得することは難しいかもしれませんが、エネルギー、物質、宇宙、生命、情報、歴史、文化と、幅広い知識領域をカバーする専攻をそろえた本学の特色を活かし、さまざまな機会に広い視野を得る努力をしていただきたいと思います。

現在、大学や基礎研究を取り巻く日本の状況は、決して希望に満ちているとは言えません。また、総研大という高等教育機関が今後どのように発展していくべきか、真剣に考えるべき課題もあります。それでも、先の見えにくい時代にあって、どのような状況でどんなに難しい事態に直面しても、一流の研究者としてそれに立ち向かい、世界で活躍できる人材を輩出していけるよう、関係各位のご協力のもと、日々努力していく所存です。

【学長・長谷川眞理子】

## ● 平成28年度春季学位記授与式を挙行

3月24日（金）に講堂において、春季学位記授与式が行われました。（修了生は、課程博士58名。論文博士5名。今回含め、これまでの修了生は、課程博士1,948名、論文博士249名。）式典に先立ち、ピアニストの藤井隆史さん、白水芳枝さんによる音楽演奏が行われました。式典では、修了生一人一人に、岡田学長より直接学位記が手渡され、学長の式辞を真剣な面持ちで聞



き入っていた修了生は、大学院生活の締めくくる授与式に、感慨もひとしおのようでした。最後に、修了生代表として宇宙科学専攻の仲内悠祐さんより謝辞が述べられ、閉式となりました。

なお、今回の各専攻の修了生内訳は下記の通りです。

地域文化学 2 名（内 1 名が論文博士）、国際日本研究 1 名、日本文学研究 3 名（内 2 名が論文博士）、構造分子科学 4 名、機能分化科学 2 名、天文科学 7 名、核融合科学 4 名（内 1 名が論文博士）、宇宙科学 4 名、加速器科学 2 名、物質構造科学 1 名、素粒子原子核 1 名、統計科学 6 名、極域科学 3 名、情報学 8 名、遺伝学 5 名、基礎生物学 4 名（内 1 名が論文博士）、生理科学 6 名です。

【総務課】

## ● 大隅良典 名誉教授との対談

2月6日に東京工業大学のすずかけ台キャンパスにて大隅良典総研大名誉教授/東京工業大学栄誉教授と岡田泰伸学長(当時、現:本学名誉教授)の対談が行われました。この対談は、「国立大学協会 平成 28 年度外部有識者等との対談を通じた広報戦略」の一貫として行われたものです。永山國昭理事(当時、現:本学名誉教授)が司会を務め、研究者への志望動機、共同研究者との出会いの研究上の意味、受賞研究への総研大生の寄与と大学院教育等をテーマに対談が行われました。



(左から) 永山先生・大隅先生・岡田先生

対談-「つづら折りの研究者人生 楽観的かつ自由に好きな分野を探求」

対談者：

大隅 良典 (総研大名誉教授/東京工業大学栄誉教授)

岡田 泰伸 (総研大名誉教授)

永山 國昭 (総研大名誉教授)

対談記事URL：[http://www.soken.ac.jp/outline/message\\_index/taidan4-1/](http://www.soken.ac.jp/outline/message_index/taidan4-1/)

大隅先生から、総研大の在学生や教員に向けてのメッセージも含まれていますので、ぜひ上記のURLをご覧ください。

【広報社会連携室】

## ● ノーベル賞受賞の対話イベントについて

長谷川眞理子学長が、2月26日に東京国際フォーラムで開催された「ノーベル・プライズ・ダイアログ・東京 2017」にパネリストとして参加されました。このイベントは、スウェーデンのノーベル財団と日本学術振興会が主催したもので、ノーベル賞受賞者と一般市民が対話するイベントです。イベントには1987年ノーベル生理学・医学賞受賞者の利根川進理化学研究所脳科学総合研究センター・センター長、2016年ノーベル化学賞受賞者のJean-Pierre Sauvage ストラズブール大学名誉教授を含む国内外から5人のノーベル賞受賞者の他、企業や大学からのパネリスト計36名が参加し、「知の未来～人類の知が切り拓く人工知能と未来社会～The Future of Intelligence」をテーマに討論を行いました。当日の様子は、以下のサイトより視聴することが可能です。

<https://www.youtube.com/nobeldialogue>

【広報社会連携室】

## ● 学融合レクチャー「結晶の対称性・基礎コース」

(第5回対称性・群論トレーニングコース)

2017年3月6-10日、高エネルギー加速器研究機構(つくば)

夏休みに'基礎をがっちり学ぼう'を合い言葉に、世界結晶年であった2014年のお盆のさなか、'対称性・群論トレーニングコース'をボランティア企画したのが始まりでした。最初の企画段階では10人参加すればよい方だろう、と思っていたのですが、事前申し込みですぐに募集人数30名を越えました。そこで半年後に第2回目を企画、募集開始から7時間で募集人数40

名を越え、第3回目は募集人数を60名に増やしたにもかかわらず、募集開始後4時間半で満員となるほどでした。このような人気に支えられて、これまでの3年間で5回の基礎コースと1回のアドバンスコースを開催、申し込み開始から数時間で満杯になることもあり、のべ約300人の方が受講しています。

この講義の最大の魅力が講師のネスポロ・マッシモ先生（フランス・ロレーヌ大学教授）です。長年、国際結晶学連合数理結晶学委員会委員長を務められ、世界中で結晶の対称性や群論の講義をした経験をお持ちです。ネスポロ先生は、かつて留学生として来日、結晶学の研究を続けました。その過程で日本語を習得されたおかげで、講義はすべて日本語で受けることができます。しかし、頻繁に質問が飛んできますので気を抜いている暇がありません。毎晩宿舎で、理解が不十分だった受講生やもっと学びたい受講生に向けて、アフタースクールが開催されており、その熱心が受講生に伝わっていきます。そのことで忙しい中に2回、3回と受講する方もいるのです。

#### 受講生の声1

数ヶ月前に総研大のある講義を受けた際に「群論」というワードが出てきまして、そのときはどのような学問なのか全く知らなかったのですが、ちょうどその後に本講義のアナウンスがあり「概要くらいは知っておこう」と思い参加することにしました。

講師のネスポロ・マッシモ先生は日本語がとても流暢で講義はとてもわかりやすいものでした。時々ジョークを言って場をなごませたり、難解なところは簡略化した図や例を用いたり、またリングを参加者の目の前で切って対称性の説明をしたり、至る所に工夫をほどこしていたのが素晴らしいです。

5日間にわたる講義は少しハードなものになりそうだと思っていましたが、このようなマッシモ先生の受講者を飽きさせない配慮があったおかげで、全日集中して講義に臨むことができ非常に有意義なものになったと感じていました。今後もこのような講義やセミナーをさらに開催してほしいです。（高エネルギー加速器科学研究科 物質構造科学専攻 宮澤徹也）

#### 受講生の声2

授業内容のとても濃いセミナーでした。対称性と群論を数日で学び抜くという挑戦的なスケジュールが体力を奪いますが、マッシモ先生の独特ながらも熱意ある授業のおかげで、短期間で対称性の入門を理解したような気になりました。総研大はもちろん、他大学の学生や教員、さらに一般企業の社会人の方々とも交流でき、自らの視野を広げつつ、群論の深みに溶け込めました。（物理科学研究科 機能分子化学専攻 藤瀬光香）

講義の内容：群論に必要な線形代数学及び抽象代数学、ステレオ投影、点群、部分群、剰余類・共役部分群・正規部分群、らせん軸と並進鏡面、計量テンソル、対称操作の行列表現、軸変換による空間群記号の変更、正規化群、対称性と対掌性、消滅則の幾何学的解釈、ワイコフ位置と結晶軌道など、群と部分群

実行委員会：奥部真樹（東北大）、五十嵐教之、神山崇（高エネ研究科）、高橋良美（KEK）



【高エネルギー加速器科学専攻 物質構造学専攻・教授 神山崇】

## サイエンスカフェ「北極の天気と海氷をしらべる」

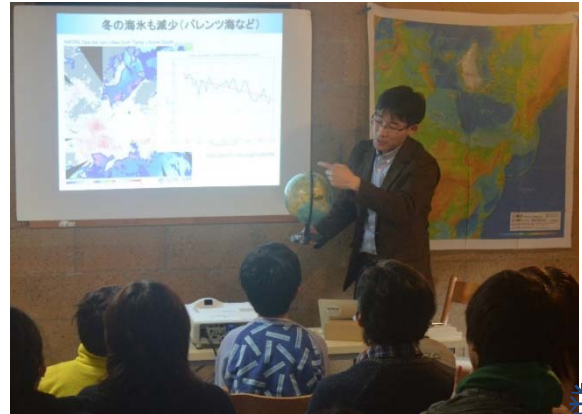
2月12日に逗子市の「理科ハウス」で行ったサイエンスカフェは、私がこれまで経験した中でもっとも活発に会話ができ、そしてホスピタリティーに満ちたものでした。定員は25名だったようですが、当日は飛び入りでの立見の方もいらっしやって、「北極の天気と海氷をしらべる～日本がめざすところ～」という話題に対して、開始前から熱気で溢れていました。

昨今の冬の寒波・豪雪に関して、北極の海氷の減少が関連していること、極端な気象現象を高精度に予測するには北極をよく観測することなどが、私からの最終的なメッセージでした。それを説明するにはまず、北極点を中心とした北極圏の地図で地理的な特徴や、海氷とはそもそも海が凍ってできるもので雪が降り積もってできた陸上の氷床とは全く異なることなど、基本的な解説にもみなさん真剣に聴き入っていました。一方で、講演中でも自由に手を挙げて質問してもらう形式にしていたので、その質問への回答から余談になり、余談から質問が出て…、というように私が準備してきた以上に北極の不思議をみなさんにお伝えできたことはとても良かったと思います。

これまで担当してきたサイエンスカフェは、講演者側にはカフェ的な時間がない形式が多かったのですが、今回のサイエンスカフェは15時に一旦30分間のおやつの時間が入り、2階に上がってコーヒーや特製のお菓子をいただきました。すごいなーと思ったのは、ここで提供されたお菓子が北極の海氷をイメージして創作してくださった「わり氷」という水色の寒天スイーツなのですが、海氷の塩分濃度に調合した特別なものも入っており、カフェタイムも北極を感じながらみなさんと歓談できました。

「世界一小さな科学館」である理科ハウスには、館長の想い、そこに集う子供と大人、思考を凝らした体験型の展示など、館内が自然と活気に満ち溢れる素敵な空間となっていて、そこに私も同化できたことはとても楽しかったです。

【複合科学研究科 極域科学専攻 准教授 猪上淳】



サイエンスカフェで熱心に話をされる猪上先生

## 市民参加型ワークショップ「古典」オーロラハンター2

さる2月19日(日)、東京立川市にある国文学研究資料館2階大会議室にて、総合研究大学



院大学の一角を担う文化科学研究科 日本文学研究専攻(国文学研究資料館)と複合科学研究科 極域科学専攻(国立極地研究所)とが、市民参加型のイベント「古典」オーロラハンター2を共同開催しました。このワークショップは総研大・学融合共同研究に採択された研究課題「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」(通称：オーロラ 4D プロジェクト、<https://aurora4d.jp/>)のメンバーが中心となって企画し、実施したものです。昨年第1回を開催したところ、大変好評で、市民の皆さんの力を借りて新たな発見もあったイベントです。この取り組みは、科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会において、人間文化研究機構「平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果」の一項目「法人間の連携に基づいた異分野融合に関する情報発信」の具体例としても取り上げていただきました。

第2回は、オーロラに加え、隕石などの情報も集めようという試みとなりました。

### ワークショップのチラシ

「宇宙災害」という言葉をご存じでしょうか。たとえば夜空を彩るオーロラの世界的な拡大は、美しいというだけではないのです。時には誘導電流による大規模停電を引き起こす要因となり、現代社会を脅かす自然災害の一種と見なすことも出来ます。隕

石の飛来がいかなる事態を引き起こすかは、想像に難くありません。そうした突発的に起こりうる宇宙災害を知ることは、私たち現代人にとって必要な情報であると言えます。「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」という研究課題は、宇宙災害を軽減する必要性のなか、人文系の研究者と自然科学系の研究者との連携によって、古典籍に光を当て、これまで知られていないデータを発掘し、未来に役立てていこうという試みなのです。

研究成果のアウトリーチ活動という一面をもつ今回のオーロラハンター2では、国文研による挨拶のあと、片岡龍峰極域科学専攻准教授による解説でオーロラ映像を鑑賞し、オーロラの仕組みを学んでもらいました。オーロラ4Dプロジェクト2年間の総括として、古典籍から得られたデータの科学的解析結果が紹介されるとともに、天変地異への人々の反応を通して、自然観・科学観の変遷を探るといった新たなアプローチの可能性も呈示されました。

続いて、総研大学院生により「古典籍に描かれた彗星（とオーロラ）の図一「星解」に描かれた彗星の図一」という発表がなされるなど、一般市民の皆さんに日頃の研究成果を紹介する時間を設け、宇宙と古典籍との関わりを深く学んでいただきました。終了後に回収したアンケートでも「先生方のお話、もう少し、ゆっくり聞きたかったです。急ぎ足はもったいない」というご意見があったことは喜びとともに反省点であり、今後の参考としたいと考えます。

後半には、作業手順の説明のあと、じっくり1時間、古典籍から用例を抜き出す作業を参加者全員で取りかかりました。今回は、古典の活字本に加え、くずし字の典籍のコピーや、『桑都日記』という地域にゆかりのある資料にもチャレンジしてもらいました。多くのデータが集積され、今その資料を点検しているところ、とのこと。今後の研究に大いに役立ってゆくことでしょう。

地域の方はもちろんのことですが、遠くは群馬県や静岡県からもご参加いただき感謝いたします。地域コミュニティ誌2社、ケーブルテレビなどのメディア取材もあり、こうした取り組みの重要性を改めて感じる1日となりました。



ワークショップの様

【国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター】

## ● プレスリリース

### 「『明月記』『宋史』の記述から巨大磁気嵐の発生パターンを解明」

3月21日(火)、文部科学省12階の記者会見室にて、本学極域科学専攻/国立極地研究所の片岡龍峰准教授と本学日本文学研究専攻/国文学研究資料館副館長の寺島恒世教授が所属する研究グループの研究成果をプレスリリースしました。プレスリリースの概要は下記の通りです。

(なお、肩書きはプレスリリース当時のものです。)

#### 【概要】

国立極地研究所(所長:白石和行)、国文学研究資料館(館長:今西祐一郎)、京都大学(総長:山極壽一)等の研究者からなる研究グループは、『明月記』などの古典籍に残されたオーロラの記述と、樹木年輪の炭素同位体比を比較することなどにより、平安・鎌倉時代における巨大磁気嵐(注1)の発生パターンを明らかにしました。本研究は、総合研究大学院大学(学長:岡田泰伸)の複合科学研究科極域科学専攻と文化科学研究科日本文学研究専攻の学融合共同研究事業「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」及び「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の中で実施されました。

藤原定家(1162-1241)が残した『明月記』には、1204年2月21日と23日、京都でオーロラが見えたとの記述があります。これは1週間のうちに何晩も、京都のような緯度の低い地域でオーロラが観測された「長引く赤いオーロラ」の記録としては、これまでに調査されている中では日本で最古のものです。中国の歴史書『宋史』には、同じ2月21日に、太陽に大きな黒点が観測されたという記述があります。これらの記述は、現代的な観測データから推定する限り、太陽から噴き出したコロナ質量放出(注2)が何度も地球に直撃することで、大きな磁気嵐が単発で終わらず何度も発生する「連発巨大磁気嵐」が起こっていたと考えられます。

研究グループは、さらに時代を遡って連発巨大磁気嵐の発生パターンを検討するため、『宋史』における 900 年代～1200 年代の「長引く赤いオーロラ」の記録と、太陽活動の強弱を反映する樹木年輪の炭素同位体比の測定データを比較しました。その結果、太陽活動の極小期前後よりも、極大期付近に多く記録されていたこと、また、太陽活動が長期的に弱くなった 1010～1050 年には、そのような「長引く赤いオーロラ」の記述がないことが明らかになりました。

これらの知見は、今後の最悪の磁気嵐を予測する上で重要な情報となります。本研究は米国地球物理学会の発行する学術誌「Space Weather」にオンライン掲載され、同誌の Editors' Highlight に選ばれました。

『明月記』

建仁四年正月十九日 天晴（中略）

秉燭以後、北井良方有赤氣、其根八如月出方、色白明、其筋遙引、如燒亡遠光、白色四五所、赤筋三四筋、非雲、非雲間、星宿歟、光聊不陰之中、如此白光、赤光相交、奇而尚可奇、可恐々々

廿一日 天晴 風烈（中略）秉燭以後、北良方又有赤氣、如隔山燒亡、重疊尤可恐、

現代語訳：1204年2月21日、晴れ。（中略）燭台に燈をともし頃（日が暮れてから）、北及び東北の方向に赤気が出た。その赤気の根元のほうは月が出たような形で、色は白く明るかった。その筋は遠くに続き、遠くの火事の光のようだった。白気（白いところ）が4、5箇所あり、赤い筋が3、4筋出た。それは雲ではなく、雲間の星座でもないようだ。光が少しも翳ることのないままに、このような白光と赤光とが入り交じっているのは、不思議な上にも不思議なことだ。恐るべきことである。

1204年2月23日、晴れ。風が強い。（中略）燭台に燈をともし頃（日が暮れてから）、北・東北の方向に再び赤気が現れた。それは山の向こうに起きた火事のようだった。重ね重ねとても恐ろしい。

注1：磁気嵐：地磁気が、世界規模で数日間弱くなる現象。大規模な磁気嵐では、活発なオーロラ活動によって地上の送電網に誘導電流が流れて停電が発生したり、人工衛星の故障を引き起こされたりする場合がある。

注2：コロナ質量放出：太陽フレアと呼ばれる爆発に伴って、大量のプラズマが太陽磁場を引き連れて一気に宇宙空間へ噴き出す現象。

【発表論文】

Historical space weather monitoring of prolonged aurora activities in Japan and in China

○掲載雑誌：Space Weather

○著者：

片岡龍峰（極地研／総研大）、磯部洋明（京都大）、早川尚志（京都大）、玉澤春史（京都大）、河村聡人（京都大）、宮原ひろ子（武蔵野美術大）、岩橋清美（国文研）、山本和明（国文研）、武居雅子（総研大）、寺島恒世（国文研／総研大）、鈴木秀彦（明治大）、藤原康徳（総研大）、中村卓司（極地研／総研大）

○論文 URL：<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/2016SW001493/abstract>

DOI：10.1002/2016SW001493

論文公開日：2017年2月27日

【研究サポート】

本研究は、本学の学融合共同研究事業「オーロラと人間社会の過去・現在・未来」、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」、人間文化研究機構機構長裁量経費「機関拠点型基幹研究PJにおける異分野融合研究創成に関するプロトタイププログラム作成事業」及

び、京都大学の「宇宙における人類の総合的研究」の助成を受けて実施されました。

研究内容の詳細については、下記の URL をご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/news/35250/>

【広報社会連携室】

## ● メディア社会文化学専攻打ち上げ兼同窓会を举行

文化科学研究科メディア社会文化専攻の活動の締めくくりとして、2017年3月4日、「メディア社会文化専攻打ち上げ兼同窓会」がホテルメトロポリタンエドモント（東京・飯田橋）にて開催されました。

メディア社会文化専攻は、メディアや情報通信技術と人間・社会・文化とのインタラクションを学際的総合的に解明する研究・教育を目的とし、大学共同利用機関メディア教育開発センターを基盤機関として2001年に発足しました。その後、組織改編によって基盤機関が放送大学に移り、放送大学の博士後期課程開設のために2009年から新規の学生募集を停止し、学位審査への対応が完了したため2017年3月末日をもって専攻を閉じることになりました。

そこで、この経緯の報告とともに同窓会の開催を呼びかけたところ、同窓生27名のうち17名が出席、総研大本部から長谷川眞理子理事、田村克己理事、小島道裕文化科学研究科長、基盤機関の放送大学から來生新副学長、岡田光正教育支援センター長、さらに専攻立ち上げ期に活躍された先生方も駆けつけてくださり、41名が集うにぎやかな会となりました。

会の冒頭、長谷川理事から、メディア社会文化専攻の活動への謝意と今後の連携への期待、そして同窓会が開催されたことへの祝辞をいただきました。次いで、來生副学長から、Now this is not the end. It is not even the beginning of the end. But it is, perhaps, the end of the beginning. というチャーチルの名言を引いて、今後の飛躍への期待が述べられました。

続いて、修了生を代表して、専攻で最初に学位を授与された八木玲子さん（東京成徳短期大学准教授）、最後に学位を授与された石橋嘉一さん（青森中央学院大学 講師）と大倉孝昭さん（大阪大谷大学 教授）から、学生生活の思い出や教員に対する感謝の念が語られました。



メディア社会文化専攻の入っていた建物



そして、小島文化科学研究科長から、メディア社会文化専攻の歴史を作るのは同窓生のみさんの今後の活躍である、との激励をいただき、乾杯となりました。会場のホテルメトロポリタンエドモントが擁する中村勝宏名誉総料理長（パリで日本人で初めてミシュランの星を取り洞爺湖サミット総料理長も務めた名シェフ）肝煎りのおいしい料理を楽しみながら近況や思い出を語り



合い、会の後半は出席者の近況報告で大いに盛り上がり、最後に三輪眞木子メディア社会文化専攻教授の挨拶をもって中締めとなりました。

同窓生 27 名のうち 23 名が現在、大学や研究機関で研究・教育に携わっており、久しぶりの再会に大いに刺激を受けたようです。お開きになっても名残を惜しんで語り合っていた同窓生たちから、ぜひまた再会の機会を、との声が挙がり、第 2 回の同窓会を 2020 年に開くことが決まったのは、予想外の喜ばしい展開でした。

振り返ってみますと、メディア社会文化専攻が発足した 2001 年は、大容量通信ネットワークが爆発的に普及し、携帯電話のインターネット接続が実現するなど、情報通信技術が日常生活に浸透し社会を急速に変貌させつつある時期でした。そうした歴史的に観ても特異的な時期に、その時期にしかなしえない基礎から応用に及ぶ学際的な教育研究を行い、時代が求める人材の養成にいささかなりとも貢献できたのではないかという手ごたえが得られたように思われます。

最後になりましたが、この 16 年間にメディア社会文化専攻に賜りましたみなさまのご芳情に心から御礼申し上げます。

【メディア社会文化専攻長(当時) 仁科エミ】  
(なお、肩書きは全て当時のものです：広報社会連携室)

## ● 国立歴史民俗博物館及び国立民族学博物館における総研大生の観覧無料化について

4 月 1 日(土)から、国立歴史民俗博物館及び国立民族学博物館において、総研大生(正規生・非正規生すべて)を対象に観覧料が無料となりました。

※「正規生」：本学の博士後期課程(3 年次編入学)、5 年一貫制博士課程に入学し在学する者

「非正規生」：研究生、科目等履修生、聴講生、特別研究学生、特別聴講学生

無料入館の際の留意事項につきましては、本学HPよりご確認ください。

<http://www.soken.ac.jp/news/35469/>



【広報社会連携室】

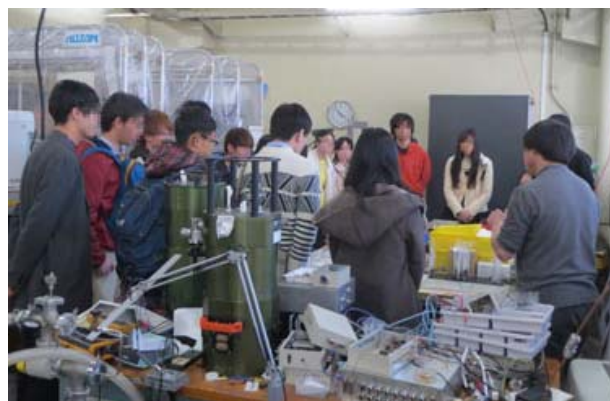
## ● 総研大・国立天文台 スプリングスクール 2017 を開催

2 月 27 日(月)～3 月 2 日(木)までの 4 日間、国立天文台三鷹キャンパスで、総研大/国立天文台 スプリングスクールが開講されました。平成 23 年から始まったスプリングスクール。7 回目を迎えた今回は、全国 36 大学から 60 名の参加者が集まりました。

参加者は、最先端の研究者を講師陣として、理論天文学、電波天文学、光赤外線天文学、太陽物理学、装置開発の 5 つの天文学講義を 4 日間にわたって受講しました。

冒頭、国立天文台長(天文学専攻長)による開校の挨拶が述べられ、「日本人の学生は海外の学生に比べるとなかなか質問をしないと言われます。質問をしましょう。」という参加者の皆さんへアドバイスがありました。

理論天文学の講義では、説明がわかりやすかった、という方がいる一方で、普段見慣れない数式に苦労した受講者も多かったようです。電波天文学の講義では、当初予定していた Espada 准教授が体調不良により欠席となってしまう、急遽、立松教授が講義を担当しました。面白かったという感想が多く聞かれました。光赤外線天文学の講義で



先端技術センターの見学の様子

は、「どんな望遠鏡をつくったらよいか考えてみよう」というシートが配られました。皆さんどんな望遠鏡を考えたのでしょうか。太陽物理学の講義では、太陽物理についての基礎を学び、質問に丁寧に回答していただけてよかったとの声がありました。装置開発の講義では、装置開発の分野についてはあまり知らなかったが興味がわいた、という方も多かったようです。

2日目には施設見学として、4D2U と先端技術センター(ATC)の見学を実施しました。開発現場で開発者の生の解説を聞くことができ、貴重な体験となったようです。ただ、今回参加者の数が大変多く、1班の人数が10名以上となり、後ろの方は見づらかった、聞きづらかった、といった感想が多くなってしまいました。今後の課題としたいと思います。

その後、総研大生による懇親会も催され、教員、総研大生とともに歓談を楽しみ、諸先輩の話はとも参考になったようです。

天文学に興味のある同世代が一堂に集まり、ともに過ごした4日間。講義から得られた知識、切磋琢磨できる仲間との出会い、教員や先輩からのアドバイス。そんなスプリングスクールでの経験が、皆さんの今後の学び・研究に少しでも役立てば幸いです。

【天文科学専攻・准教授 関本裕太郎】

## ● 平成 28 年度第 2 回情報セキュリティ・セミナーを実施

2017年2月17日(金)、葉山キャンパスにおいて、平成28年度第2回情報セキュリティ・セミナーを開催しました。

最初に、役員・教職員・学生ら35名の参加のもと、洞田慎一氏(JPCERT/CC※1)による講演「研究機関におけるサイバー攻撃の脅威と対策」が行われました。その中で様々な事例およびデータが示され、高等教育機関および研究者は、日常的にコンピュータを使用する環境にあり、研究活動や影響力の大きさからターゲットとして狙われやすい傾向にあること、脅威を軽視し放置することで被害が拡大し、結果として活動範囲を狭めることに繋がりがねないこと等が解説されました。対策として、各々がインシデントの起点になり得るという意識をもち、事前のセキュリティ対策に加え、適切なメンテナンスを随時行うこと、また、インシデントが起きてしまった場合にどう対応するか、備えておくことが大切であり、管理できる範囲でのICTの利活用方法を再検討する等も有効であるとのことでした。質疑応答では、参加者から、インシデントに対し本学として特に意識すべき点や、日常に潜むリスクについて等、様々な質問がありました。最後に大田情報基盤推進部長より、インシデントは自身に関わる問題であり、発生時には、すぐ報告することで迅速な対応が可能となり、結果として、被害拡大を最小限に抑えられるため、微細なことでも疑わしい点があれば早期に学術情報基盤センターに状況を連絡するよう、要請がありました。



聴講する参加者

続いて、情報システム担当者を対象とした「情報セキュリティ講習会」を開講し、会場のみならず、遠隔講義支援システム(TELAS@soken)を通じて複数の基盤機関より参加がありました。本講習会は、公共機関等におけるCSIRT※2構築と運用について、具体例を交えた実践的な内容となり、参加者より好評を得ました。

※1Japan Computer Emergency Response Team Coordination Center

※2Computer Security Incident Response Team

【学術情報基盤事務室】

# 受賞

## 情報学専攻の北村大地 氏(2017 年度修了生)が 第 7 回(平成 28 年度)日本学術振興会 育志賞を受賞しました!

2016 年度 複合科学研究科 情報学専攻 修了生の北村大地 氏(現:東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻・特任助教)が、第 7 回(平成 28 年度)学術振興会 育志賞を受賞し、授与式が 3 月 8 日(水)に日本学士院にて行われました。今回の受賞は、本学で 3 人目(過去に第 4 回で 2 名受賞)であり、複合科学研究科 情報学専攻からは初となります。

受賞者について、以下に紹介いたします。

### 受賞者について

所属:総合研究大学院大学 複合科学研究科 情報学専攻  
2017 年 3 月修了

研究テーマ:非負値行列因子音源モデルに基づく音楽信号の多チャンネルブラインド音源分離

略歴: 香川県出身

香川高等専門学校 専攻科 創造工学専攻(学士,  
2012 年 3 月)

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科  
(修士, 2014 年 3 月)

総合研究大学院大学 複合科学研究科 情報学  
専攻(博士, 2017 年 3 月)

日本学術振興会特別研究員(DC1, 2017 年 3  
月まで)

東京大学 大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻(特任助教)



研究中の北村氏

受賞者の北村氏からコメントをいただきましたので掲載いたします。

複合科学研究 情報学専攻(2016 年度修了生)  
北村 大地

このたび、総合研究大学院大学(総研大)の博士課程で行った「非負値行列因子音源モデルに基づく音楽信号の多チャンネルブラインド音源分離」という研究テーマに対して、第 7 回日本学術振興会育志賞を頂きました。本研究テーマは、情報処理工学の中でも音響信号を取り扱う研究です。私は小さな頃から音楽や楽器演奏等に強い興味を抱いてきましたが、そのような誰しもが親しむ音楽的芸術文化をより興隆するための新技術として期待することができます。

私は高専の出身で、エンジニアとしての教育を長く受けてきました。人の役に立つことが目的の学問である工学では、唯一の真理を探究することが目的の学問とは大きく異なり、取り組むべき未解決問題に対していくつものアプローチが存在する 경우가ほとんどです。それらに良し悪しはあっても、絶対的な正解はなく、現実でどれだけ人の助けになるか、といった現実的妥当性が技術の価値を決める重要な指標となります。私はこのような「人ありき」の学問の世界に強い魅力を感じ、高専の専攻科を卒業した後も、情報学という立場から工学の目的を追求するため、奈良先端大、総研大へと進学しました。

総研大(場所としては国立情報学研究所)は、機関が購読している学術論文の自由閲覧、事務職員の方々の学生生活サポート、分野を超えた研究者間交流の促進等々、研究活動に集中できる環境が整っています。また、多様性を推奨する総研大の方針通り、非常に多国籍の学生(インターンシップを含む)と共に研究できますので、日々生活をしているだけで語学力が向上していくというメリットがあります。本研究テーマの研究成果及び育志賞の受賞は、熱心に指導してくだ

さる先生方を含め、総研大のこの研究環境によって得られたものといえます。

本研究テーマで取り扱う「音源分離」という技術課題は、学術的には30年以上も昔から取り組まれ続けている極めて重要かつ基本的な問題です。私が提案している新しい音源分離手法は、先人の数々の偉大な数理的（あるいは工学的）発明の応用・発展技術として捉えることができ、いわば「巨人の肩の上に立つ」研究といえます。このような先人の積み重ねた膨大な知識や成果に最大限の敬意を払うとともに、その歴史の最前線に貢献すること、さらにそれを追求していく「温故知新」の精神の重要性を、博士課程での研究活動を通して強く実感しています。

最後になりましたが、この研究テーマは、私の指導教員である小野順貴准教授の研究指導をはじめ、東京大学の猿渡洋教授、NTTの澤田宏博士及び亀岡弘和博士との共同研究として進められたものであり、研究成果及び育志賞の受賞は、皆様の日頃の熱心なご指導の賜物であります。この場を借りて、深く御礼申し上げます。



指導教員の小野順貴准教授（右）と研究協力者の猿渡洋教授（左）と北村大地氏（中央）、日本学士院授賞式終了直後

## 受賞対象研究概要

### ○音源分離 —混ざった音を分ける技術—

音源分離は複数の音が混ざった信号から混合前の音を分離する技術です。これは、人間が持つ特定の音だけを聞き分ける能力（カクテルパーティ効果）を機械で実現する技術課題であり、知能情報学分野の一大トピックです。例えば、複数話者の混合信号を話者毎に分離することや、楽曲に混ざっている各楽器パートの推定等が可能になります。工学的には、音声通信の品質や音声認識の精度の向上、既存音楽の再編集や情報検索、補聴器の聴こえ改善、災害現場での音による救助要請者の搜索等の応用が挙げられます。

近年は、様々な課題において大量の学習データを利用して解決する、ディープラーニングと呼ばれる手法が盛んですが、音源分離問題では、録音環境（音源位置、マイク位置、残響時間等）が多用に変化するため、「混合前の音源」や「録音環境」の学習データを大量に集めることはほとんど不可能です。逆に、学習データを全く用いない「ブラインド音源分離」と呼ばれる技術は、産業への応用が容易で社会的意義の深い技術です。本研究テーマでは、ブラインド音源分離の理論的拡張による適用対象の拡大と、高性能・高効率で実用的なアルゴリズムを構築することです。

### ○ブラインド音源分離の歴史とモデルの発展

ブラインド音源分離は、1990年代に登場した独立成分分析（ICA）と呼ばれる統計的な数理理論を起源としています。ICAは脳科学や無線工学、メディア信号処理、金融工学等の分野で応用されていますが、音響信号では音速が遅いために時間遅れを含む混合問題となり、より難しい問題になります。そのため、2007年になってようやく独立ベクトル分析（IVA）が登場し、複数話者信号の分離が実現しました。

ICAやIVAは、分離系を推定する手法（図1上部参照）ですが、音源信号と混合系はいずれも未知です。そのため、ICAでは音源信号をスカラー確率変数、IVAではベクトル確率変数とそれぞれみなし、それらの従う確率分布を仮定した抽象的なモデルを用いて分離系を推定してきました（図1中部参照）。ブラインド音源分離では、この音源の確率分布（音源モデル）の正確さが分離性能を支配するため、ICAからIVAへの拡張と同様に、音源モデルをより正確で精緻なものに拡張することが重要になります。

### ○提案法：独立低ランク行列分析（Independent low-rank matrix analysis: ILRMA）

提案法は、音楽を含む多くの音響信号が「同じ音色を繰り返す」という構造を持つことに着目し、音源モデルを、IVAのベクトル変数から低ランク行列変数へと拡張しています。これを「独立低ランク行列分析（ILRMA）」と呼んでいます。音源信号の低ランク行列モデルの推定には

非負値行列因子分解（NMF）と呼ばれる数理論を用いており、頻繁に出現する音色パターンやそれらの出現タイミングをブラインドに推定することができます（図1下部参照）。このように ILRMA は、音源信号の時間周波数構造（音色パターン等）を正確に捉え、新しい音源モデルとして活用することで、従来よりも高精度に分離系を推定することができます。さらに ILRMA は、NMF の多チャンネル拡張手法である多チャンネル NMF（MNMF）と IVA の中間的な定式化となっており、独立に提案された IVA と MNMF という現在の二大音源分離アルゴリズムが、実は密接に関連しているという事実を世界で初めて理論的に明らかにしました。

音楽及び音声信号のブラインド分離実験の比較例を図2に示しています。縦軸の SDR は音源分離精度の客観評価尺度で、高い値ほど高精度な分離であることを示しています。また、各手法の演算時間も示しています。ILRMA は極めて高精度な分離を IVA とほぼ同程度の演算時間で達成しており、低ランク行列による音源信号モデルの妥当性を示しています。

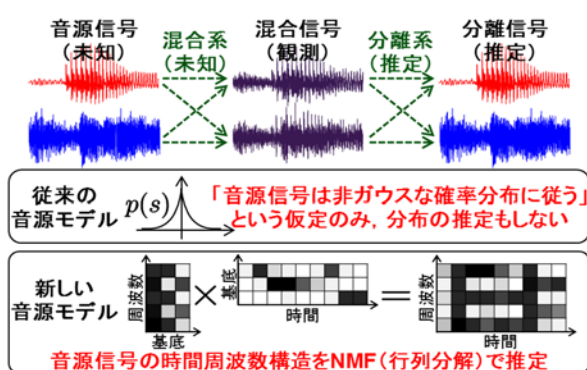


図1 従来法と提案法のモデルの違い

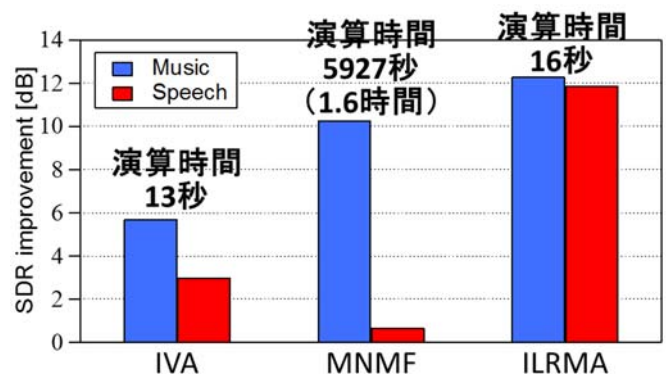


図2 音源分離実験結果の比較

下記URLも併せてご覧ください。

<https://www.soken.ac.jp/news/n03/34532/>

【広報社会連携室】

○文化科学研究科 国際日本研究専攻 小松和彦 教授

猪名川町 町民栄誉賞を受賞

(猪名川町で町民栄誉賞の受賞者は、小松教授で2人目)

○高エネルギー加速器科学研究科 物質構造学専攻 小林正典 名誉教授

一般社団法人・日本真空学会の第3回学会賞を受賞

顕彰業績：「放射光源真空技術の進歩発展、公益活動への貢献」

賞の概要：日本真空学会賞は真空、表面および関連する科学・技術とその産業利用の進歩発展に関して顕著な功績をあげた日本真空学会正会員に授与されます。

○高エネルギー加速器科学研究科 物質構造科学専攻 間瀬一彦 准教授

一般社団法人・日本真空学会の第3回フェローに選ばれた。

受賞対象：「卓越したアイデアと高度な実験技術に基づく先駆的かつ顕著な成果」

概要：日本真空学会における継続的な活動を通じて真空、表面および関連する科学・技術とその産業利用の進歩発展、あるいはそれらに関連する教育・公益活動に関して顕著な業績をあげた正会員に授与される

○物理科学研究科 機能分子科学専攻 中村敏和 准教授

日本物理学会第22回論文賞を受賞

論文題目：Charge Ordering in  $\alpha$ -(BEDT-TTF)2I3 by Synchrotron X-ray Diffraction

(放射光 X 線回折による  $\alpha$ -(BEDT-TTF)2I3 の電荷秩序)

○複合科学研究科 情報学専攻 ZHENG Ningさん (2016年度修了生)  
2016 Chinese Government Award for Outstanding Self-Financed Students Abroad

○生命科学研究科 遺伝学専攻 土屋裕樹さん (学生)  
遺伝学専攻 山本 一徳さん (学生)

森島奨励賞を受賞

賞の概要：総研大遺伝学専攻で優秀な研究成果を発表して学位を取得した学生に、その研究内容を称えとともに今後のさらなる発展を促す目的で贈られます。

## 受賞コメント

複合科学研究科 情報学専攻 (2016年度新入生) ZHENG Ningさん

It is my great honor and pleasure to receive the "2016 Chinese Government Award for Outstanding Self-Financed Students Abroad". Based on the performance of academic researches, there are 76 students passed the preliminary examination and finally 30 students won the award in Japan. I am greatly indebted to my supervisor, Professor Ken Hayami (速水謙), for his patient guidance, insightful and invaluable advice to my research all these years.



Zhengさん (国立情報学研究所  
学位授与記念メダル贈呈式にて)

## イベント情報

○4月11日(火)～4月14日(木)に平成29年前学期フレッシュマンコースが開催中

葉山キャンパスにて、4月11日(火)から平成29年度前学期フレッシュマンコースが開催されています。4日間の開催期間中、主に新入生を対象として、研究者になるため必要なさまざまな学問分野に開かれた知的好奇心、研究とは何か、研究者とは何かの理解に基づく高い倫理観、そして、自分の研究を語り、他者の考えに耳を傾ける優れたコミュニケーション力を学びます。フレッシュマンコースは「知のフロンティア」、「学生セミナー」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の4つのセクションからなります。フレッシュマンコースのプログラムを通して、総研大全体の知的広がりを知るとともに、専攻を越えた人的つながりを築き、研究者の倫理とは何か、研究者の「ライティング」と「プレゼンテーション」の基礎的な技術について学びます。

日時：4月11日(火)～14日(金)

場所：総研大葉山キャンパス

詳細については、下記のURLも併せてご覧ください。

[日本語] [http://www.soken.ac.jp/event/20170411\\_0414j/](http://www.soken.ac.jp/event/20170411_0414j/)

[英語] [http://www.soken.ac.jp/event/20170411\\_0414e/](http://www.soken.ac.jp/event/20170411_0414e/)

なお、フレッシュマンコースの様子については、107号(5月10日発行)に掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

○第23回湘南国際村フェスティバル2017で長谷川学長が講演します。

本学では、毎年ゴールデンウィーク期間中に開催される「湘南国際村フェスティバル」に参加しております。今年からは、5月3日(祝・水)14時から講演会『進化から見たヒトの成長と子育て』を行います。

— 講演会『進化から見たヒトの成長と子育て』 —

講師：長谷川真理子 学長

日時：2017年5月3日(水・祝)14:30-16:00

会場：葉山キャンパス 共通棟2階 講義室

ヒトという動物は脳が大変に大きく、他の動物にはできない発明、発見などを成し遂げ、文明を発展させた。しかし、これほど大きな脳を持つ子どもを育てることは大変な仕事であり、ヒトの成長には20年近い時間がかかる。こんな子育てを、母親だけ、また両親だけでも成し遂げることはできない。ヒトは、血縁、非血縁の多くの個体を総動員して子育てする、共同保育の動物なのである。ヒトの子どもはどのように成長するのか、進化から見た現代環境とのミスマッチも含めて考えたい。

湘南国際村フェスティバル2017については、下記のURLも併せてご覧ください。

<http://www.shonan-village.co.jp/festival2017/>



○基礎生物学専攻 大学院説明会を開催

5月13日(土)に、秋葉原UDXカンファレンスにて生命科学研究科 基礎生物学専攻 大学院説明会が開催されます。

—平成29年第2回基礎生物学専攻 大学院説明会—

日時：5月13日(土) 13:00-17:00

場所：秋葉原UDXカンファレンス 会議室 Type120 (D)

当日の詳細と大学院説明会へのお申し込みについては、下記のURLをご覧ください。

<http://www.nibb.ac.jp/graduate/index.html>

○生命共生体進化学専攻 講演会・説明会を開催

5月20日(土)に、秋葉原UDXにて先導科学研究科 生命共生体進化学専攻講演会・説明会を開催します。

—2017年総研大先導科学研究科生命共生体進化学専攻講演会・説明会—

日時：5月20日(土) 13:00-17:00

場所：秋葉原UDXカンファレンス 会議室 type120

プログラム：13:00-15:00 第1部 TBA

15:10-16:00 第2部 生命共生体進化学専攻説明会

16:00-17:00 研究室の研究説明/個別相談

詳細については、下記のURLをご覧ください。

○5月20日(土)に遺伝学専攻の大学院一日体験会を開催

5月20日(土)、国立遺伝学研究所(遺伝研)にて、大学院一日体験会(5年一貫制博士課程・博士後期課程)が開催されます。遺伝研は、総合研究大学院大学(総研大) 生命科学研究科 遺伝学専攻として、大学院生の教育をおこなっています。総研大のコンセプトは「優れた研究環境と人材を活用してトップクラスの研究者を養成する」ことです。是非、一日体験会で遺伝研の研究環境を体験してみてください。

—国立遺伝学研究所 大学院一日体験会(5年一貫制博士課程・博士後期課程)—

日時：2017年5月20日(土)13:00-17:00

場所：国立遺伝学研究所

※事前申込みにより交通費(片道)支給。

事前申込み締切：2017年5月18日（木）正午

申込み、体験会の内容等の詳しい情報は、下記URLよりご確認ください。

<https://www.nig.ac.jp/nig-daigakuin/nig-daigakuin2017/>

### ○物理科学研究科 核融合科学専攻 入試説明会を開催

物理科学研究科 核融合科学専攻の入試説明会を下記の日程で開催します。

5月24日（月）13:00-16:00、TKP 東京八重洲カンファレンスセンター

5月25日（火）13:00-16:00、TKP 名古屋伏見ビジネスセンター

5月27日（木）13:00-16:00、TKP ガーデンシティ博多アネックス

5月28日（金）13:00-16:00、TKP 新大阪ビジネスセンター

対象：博士課程（5年一貫制）：大学学部卒業相当

博士課程（3年次編入）：大学院修士相当

内容：対面形式による核融合科学専攻の紹介、入試要項の説明、学費支援制度の説明など

参加申込期限：平成29年4月21日（金）正午まで

なお、参加申込方法などの詳細については、下記のURLをご覧ください。

<http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/>

### ○「平成29年度総研大生のための英語ポスタープレゼンテーション短期研修」の応募開始

6月15日（木）-16日（金）に、「英語によるポスタープレゼンテーション短期研修」を実施します。Todd Gorman 先生（国立遺伝学研究所）・Jeremiah S. Sechrist 先生（自然科学研究機構（岡崎））によるポスタープレゼンテーション・トレーニングの他、JSPS サマー・プログラムの一部のイベント、「グループディスカッション」や「ポスタープレゼンテーション」にも参加します。プレゼンテーションの技能習得と併せ、外国人若手研究者との交流を深めるまたない機会ですので、是非積極的にご参加ください。なお、本研修の受講にあたり、参加学生には交通費支援とともに、宿泊施設の提供を行います。

### —平成29年度総研大生のための英語ポスタープレゼンテーション短期研修—

開催日時：2017年6月15日（木）-16日（金）

場所：総研大葉山キャンパス及び湘南国際村センター

講師：Todd Gorman 先生（国立遺伝学研究所）

Jeremiah S. Sechrist 先生（自然科学研究機構（岡崎））

参加資格・予定人数：本学学生（非正規生並びに休学者を除く）、10名程度を予定

募集要項、参加申込書等については、下記のURLをご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/event/eps2017/>



### ●基盤機関の行事

4月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
開催中 -4月11日 (火)	10:00-17:00	企画展「津波を越えて生きる—大槌町の奮闘の記録」 国立民族学博物館 本館企画展示場	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/tsunami20170119/index">http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/tsunami20170119/index</a>
開催中-5月7日(日)	9:30-17:00	企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」 国立歴史民俗博物館 企画展示	<a href="http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html">http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html</a>
開催中-5月7日(日)	9:30-16:30	くらしの植物苑特別企画「伝統の桜草」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	<a href="http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/project/index.html">http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/project/index.html</a>



開催中-5月 27日(土)	10:00-16:30	通常展示「和書のさまざま」 国文学研究資料館 展示室	<a href="http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/washosama201701.html">http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/washosama201701.html</a>
開催中-5月 中旬	10:00-16:30	展示特設コーナー「江戸の料理書・料理本」 国文学研究資料館 展示室	<a href="https://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/ryouri.html">https://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/ryouri.html</a>
開催中 -6月6日(火)	10:00-17:00	開館40周年記念特別展「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」 国立民族学博物館 特別展示館	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/index">http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/index</a>
1日(土)		開館40周年記念事業 小・中学生の観覧無料化 国立民族学博物館 本館展示場 特別展示館	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/news/20170401admission">http://www.minpaku.ac.jp/museum/news/20170401admission</a>
1日(土)	13:15-	4D2U定例公開「ダークマターハローの形成・進化」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
2日(日)	14:30-15:15	【特別展関連】みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「身近な素材、貴重な素材—台湾原住民族のビーズの多様性」 国立民族学博物館 特別展示館	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/459">http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/459</a>
4日(火) 6日(木)	14:00-16:30	2017年度みんなく春の遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス 国立民族学博物館 本館2階第5セミナー室	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/research/sc/teacher/guidance">http://www.minpaku.ac.jp/research/sc/teacher/guidance</a>
7日(金)	13:15-	4D2U定例公開「ダークマターハローの形成・進化」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
7日(金)	19:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：月> 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/stargazing/">https://prc.nao.ac.jp/stargazing/</a>
8日(土)	9:00-16:00	一般公開・国立遺伝学研究所	<a href="https://www.nig.ac.jp/koukai/">https://www.nig.ac.jp/koukai/</a>
8日(土)	13:00-15:00	第399回歴博講演会「ザ・メイキングオブ デジタルで楽しむ歴史資料」 国立歴史民俗博物館 講堂	<a href="http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html">http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html</a>
8日(土)	13:15-	4D2U定例公開「ダークマターハローの形成・進化」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
9日(日)	14:30-15:00	【特別展関連】みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「北アメリカ先住民とアイヌのガラスビーズ利用」 国立民族学博物館 特別展示館	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/460">http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/460</a>
11日(火)	14:00-16:00	日文研フォーラム ハートピア京都3階大会議室	
15日(土)	13:15-	4D2U定例公開「ダークマターハローの形成・進化」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
15日(土)	13:30-15:00	第467回みんなくゼミナール「エジプトでイスラム思想のテキストを読む」 国立民族学博物館 講堂	

16日(日)	14:30-15:00	【特別展関連】みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう「世界のビーズ、日本のビーズ」 国立民族学博物館 特別展示館	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/461">http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/461</a>
18日(火)-7月17日(月・祝)	9:30-17:00	特集展示「見世物大博覧会 現代編」 国立歴史民俗博物館 第4展示室	<a href="http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/special/index.html">http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/special/index.html</a>
21日(金)	18:30-20:00	サイエンスカフェ 「南極最新事情」 国立極地研究所 談話室サザンクロス	<a href="http://www.nipr.ac.jp/science-museum/event.html">http://www.nipr.ac.jp/science-museum/event.html</a>
22日(土)	19:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：木星> 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/stargazing/">https://prc.nao.ac.jp/stargazing/</a>
23日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう「民博の展示資料を守る」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/462">http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/462</a>
24日(月)	13:00-16:00	総合研究大学院大学 物理科学研究科 核融合科学専攻 入試説明会(東京) TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター	<a href="http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/">http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/</a>
25日(火)	13:00-16:00	総合研究大学院大学 物理科学研究科 核融合科学専攻 入試説明会(名古屋) TKP名古屋伏見ビジネスセンター	<a href="http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/">http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/</a>
27日(木)	11:30-12:15	ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	<a href="http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/washosama201701.html">http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/washosama201701.html</a>
27日(木)	13:00-16:00	総合研究大学院大学 物理科学研究科 核融合科学専攻 入試説明会(福岡) TKPガーデンシティ博多アネックス	<a href="http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/">http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/</a>
28日(金)	13:00-16:00	総合研究大学院大学 物理科学研究科 核融合科学専攻 入試説明会(大阪) TKP新大阪ビジネスセンター	<a href="http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/">http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/</a>
28日(金)	10:30-12:00 14:00-15:30	【特別展関連】ワークショップ「ビーズの素材に注目！—ペーパービーズをつくろう」 国立民族学博物館 特別展示館など	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/event">http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/event</a>
29日(土・祝)	13:30-15:30	第217回くらしの植物苑観察会「ゲノムから見たサクラソウ園芸品種の歴史」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	<a href="http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html">http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html</a>
30日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	
30日(日)	14:30-15:15	みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう「『異教徒の地』と『光の地』—パキスタン・アフガニスタンのカタ人とカラーシャ人」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/463">http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/463</a>

## 5月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
2日(火)	10:30-12:00 14:00-15:30	【特別展関連】ワークショップ「ビーズの素材に注目！—ペーパービーズをつくろう」 国立民族学博物館 特別展示館など	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/event">http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/event</a>

3(月)	10:00-17:00	「Fusionフェスタ in Tokyo 2017 ー核融合！ 未来を創るエネルギーー」 日本科学未来館 7階（東京都江東区青海 2-3-6）	<a href="http://www.nifs.ac.jp/welcome/tokyo2017/">http://www.nifs.ac.jp/welcome/tokyo2017/</a>
6日(土)	13:15-	4D2U定例公開「渦巻銀河の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
7日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう「華僑の移住と暮らしータヒチ」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	
12日(金)	13:15-	4D2U定例公開「渦巻銀河の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
12日(金)	19:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体：木星> 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/stargazing/">https://prc.nao.ac.jp/stargazing/</a>
13日(土)	13:00-15:00	第400回歴史博講演会「晩ご飯は何？資料のデンプンから探る昔の食べ物」 国立歴史民俗博物館 講堂	<a href="http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html">http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html</a>
13日(土)	13:15-	4D2U定例公開「渦巻銀河の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
14日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう「豊かな高齢期とナラティブ」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	
15日(土)	13:30-15:00	第468回みんなくゼミナール「心地よい暮らし（エイジング・イン・プレイス）ーコミュニティをつなぐアーミッシュたちの暮らしから」 国立民族学博物館 講堂	
20日(土)	13:00-17:40	大学院1日体験会・国立遺伝学研究所	<a href="https://www.nig.ac.jp/nig-daigakuin/">https://www.nig.ac.jp/nig-daigakuin/</a>
20日(土)	13:15-	4D2U定例公開「渦巻銀河の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/4d2u/">https://prc.nao.ac.jp/4d2u/</a>
21日(日)	14:30-15:00	みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう「マランガン儀礼と彫刻ージョージ・ブラウン・コレクションから」 国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)	
24日(水)	13:00-16:00	総合研究大学院大学 物理科学研究科 核融合科学専攻 入試説明会（核融合科学研究所）	<a href="http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/">http://soken.nifs.ac.jp/wp/admissions/setsumeikai/</a>
25日(木)	11:30-12:15	ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	<a href="http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/washosama201701.html">http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2016/washosama201701.html</a>
27日(土)	10:30-12:00 14:00-15:30	【特別展関連】ワークショップ「ビーズの素材に注目！ーペーパービーズをつくろう」 国立民族学博物館 特別展示館など	<a href="http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/event">http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20170309beads/event</a>
27日(土)	13:30-15:30	第218回くらしの植物苑観察会「梅雨の植物文化誌」国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	

27日(土)	19:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 <観望天体:木星> 国立天文台三鷹キャンパス	<a href="https://prc.nao.ac.jp/stargazing/">https://prc.nao.ac.jp/stargazing/</a>
28日(日)	14:30-15:00	みんぱくウィークエンド・サロンー研究者と話そう「新しい東南アジア展示場ができるまでー生業と寺院を中心に」 国立民族学博物館 東南アジア展示場	

### ★【広報社会連携室から】

○岡田泰伸 総研大名誉教授の記事が3月27日(月)発行の日本経済新聞に掲載されました。記事の内容は、下記のURLよりご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2017/03/okada.nikkei.pdf>

○学融合推進センターの塚原直樹助教が4月2日(日)発行の朝日新聞に掲載されました。

企画特集【どうする?研究費】 自作のゆるキャラで稼ぐ

記事の内容は、朝日新聞DIGITALでご覧ください。

<http://www.asahi.com/area/kanagawa/articles/MTW20170403150150002.html>

○長谷川学長が4月8日(土)に開催された市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか?」で講演を行いました。

長谷川学長が4月8日(土)に東京大学 弥生講堂一条ホールで開催された市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか?」(主催:日本生物地理学会)にて講演を行いました。

広報社会連携室では、各専攻の担当教員の「メディア出演」を総研大HP並びに総研大ニューズレター掲載等により発信しておりますので、出演情報を是非お寄せください。なお、メディア出演情報は「出演します/出演しました」どちらでも構いませんので、ご提供のほどよろしくお願いいたします。

### ○神奈川新聞連載コラム記事について

本学の知名度向上と総研大教員の研究の社会還元を目的として、神奈川新聞リレー記事『最先端の現場ー総研大発ー』を6月10日(金)から毎月隔週(第2・第4金曜日)で掲載しております。

4月12日現在、連載全24回中第20回目まで記事が掲載されました。連載記事は、総研大HP上でも見ることができます。

詳細は、下記のURLをご覧ください。<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/column/>

(総研大HP上での掲載は、権利関係上、掲載日から1年間のみとなります。)

#### 【連載第20回までの執筆者一覧】

掲載順	掲載日	研究科	専攻	執筆者	役職
1	6/10	葉山本部	広報社会連携室	眞山聡	講師
2	6/24	物理	宇宙科学	橋本博文	准教授
3	7/8	文化	国際日本研究	細川周平	教授
4	7/22	物理	構造分子科学	正岡重行	准教授
5	8/13	生命	遺伝学	斎藤成也	教授
6	8/26	複合	極域科学	猪上淳	准教授
7	9/9	高エネ	物質構造科学	千田俊哉	教授
8	9/23	文化	日本歴史研究	山田康弘	教授
9	10/14	物理	天文科学	有本信雄	教授
10	10/28	複合	統計科学	吉田亮	准教授
11	11/11	先導	生命共生体進化学	寺井洋平	助教
12	11/25	文化	地域文化学	野林厚志	教授
13	12/9	高エネ	加速器科学	土屋公央	准教授

今回の連載は、4月14日(金)です!

14	12/23	生命科学	生理学	井本敬二	教授(専攻長)
15	1/13	文化	日本文学研究	海野圭介	准教授
16	1/27	物理	核融合科学	後藤基志	准教授
17	2/10	葉山本部	学融合推進センター	西中美和	特任准教授
18	2/24	物理	機能分子科学	小杉信博	教授
19	3/10	葉山本部	学融合推進センター	内川明香	助教
20	3/24	高エネ	素粒子原子核	宇野彰二	教授

新聞発行後、総研大HPに記事を掲載いたしますので、ぜひ総研大HPへお越し下さい！

### ○広報特派員の募集について

広報社会連携室では、広報特派員を募集しております。総研大の広報活動にご協力いただける学生さんの応募をお待ちしております。

詳細につきましては、下記URLをご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/information/corres/>

### 【編集後記】

総研大ニューズレター第106号をお届けします。私事ですが、今年の4月で入社してから1年が経ちました。この1年はあっという間に過ぎてしまい、自分は、昨年の4月よりも少しは成長できたのでしょうか（成長できていればいいのですが）。入社後、初めての業務は、前学期フレッシュマンコースの開催支援でした。右も左もわからない状態でのフレッシュマンコースでした。現在、葉山キャンパスでは、4月11日から14日の期間、春のフレッシュマンコースが開催されています。多くの総研大生の方に参加いただき、大変嬉しく思います。



総研大の桜

トピックスの原稿をご寄稿いただけましたら、総研大ニューズレターへ掲載いたしますので、総研大関係のイベント、受賞情報等ありましたら、是非とも広報社会連携室まで情報をお寄せください。

広報社会連携室 E・A

広報社会連携室では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報は是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2017年4月12日

編集



国立大学法人

総合研究大学院大学

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報社会連携室

TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2017SOKENDAI